

# SSKR まうんてんえこお NO.317

## 社会福祉法人 練馬山彦福祉会

### 本部

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9  
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035  
<http://nerimayabiko-hukushikai.jp/>

### 山彦作業所（就労継続支援B型）

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9  
TEL(03)3998-5023 FAX(03)3998-5035  
Email : ymbk@mvi.biglobe.ne.jp

### 山彦相談支援事業所（相談支援）

〒177-0034 東京都練馬区富士見台2-19-9  
TEL&FAX(03)3970-2365  
Email : ymbksoudan@xqd.biglobe.ne.jp

### やまびこ第二作業所（就労継続支援B型）

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30  
TEL(03)6904-3411 FAX(03)6904-3413  
Email : ymbk2@mue.biglobe.ne.jp

### やまびこ第二相談支援事業所（相談支援）

〒179-0073 東京都練馬区田柄1-4-30

### ワークショップ石神井（就労継続支援B型）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4  
TEL(03)5923-9811 FAX(03)5923-9812  
Email : yamabiko@shakujii-work.jp

### チャレンジワークやまびこ（就労移行支援）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4  
TEL(03)5923-9864 FAX(03)5923-9865  
Email : challenge@shakujii-work.jp

### ワークショップ石神井相談支援事業所 （相談支援）

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-17-4  
TEL(03)5923-9818 FAX(03)3997-3650  
Email : soudan@shakujii-work.jp

### やまびこ三原荘（共同生活援助）

〒178-0063 東京都練馬区東大泉  
TEL(03)3978-6352 FAX(03)5935-6320  
Email : miharaso@mue.biglobe.ne.jp

### 目次

表紙 やまびこ第二

P2 24年度事業計画 法人本部

P3 同上 山彦作業所

P4 同上 やまびこ第二

P5 同上 ワorkshop石神井

P6 同上 やまびこ三原荘

P7 同上 相談支援(3所)

P8 同上 チャレンジワーク

P9 やまびこのペン

P10 やまびこのかぜ

## やまびこ第二作業所の作業風景

ダイレクトメールの丁合・封入作業の紙部材は重いものが多く、千単位ともなるとかなりの重量になります。納品や受取りの積荷、その他に公園清掃など、協力しながらの作業は毎日が体力勝負です。

これからの暑い時期は本当に大変になりますが、働くことの意味や大切さを皆で分かち合いながら作業を続けています。



# 法人本部 2024年度事業計画

昨年の5月に、コロナ感染症が5類となりましたが、今年度は、注意をしながらも徐々にコロナ前の状態に移し、それぞれの事業所で本来の支援の在り方の検討を積極的に行い実行していきたいと考えています。

4月から障害福祉サービスの報酬改定が実施されます。報酬が今まで以上に、より細かく設定され全体的に就労に力を入れて考えられているように感じます。自分達の事業所だけで無く、福祉全体がどう動いているのか、自分達がどう動いたら良いのか常にアンテナを張り巡らせて、かつ透明性のある法人運営にあたっていききたいと思えます。

## 1. 人材育成について

1977年10月に山彦作業所を開設し46年が経ちました。無認可時代を経験している職員も徐々に少なくなり世代交代により職員の育成が緊急の課題となっています。障害者の置かれている環境は変わったものの依然として厳しいものがあります。支援の充実を図る観点から、事業所が生まれた原点を引き継ぎながら継続していくために、職員研修のあり方や内容を理解し職員集団の力として支援力に活かしていきます。また、事業継続の為に相談支援従事者研修を多くの職員が受けるようにします。

具体的には、①虐待防止研修、②経験に応じた研修・法人内事業所研修等を行っていきます。

## 2. 中長期計画の策定

2年前から担当者を各事業所から選出し、話し合いを重ねています。話しあった結果は合同職員会議で報告し共有してきました。情勢としては量より質を重んじるようになってきておりますので、なかなか具体的な策定は難しい状況ではありますが、何より話し合う過程を大切にしています。

## 3. 相談支援事業のあり方の検討

現在、3施設にそれぞれ相談支援事業所を併設していますが、相談支援員が兼務の為にB型事業所の職員不足を何とか解消したいと検討してきました。現在、区とのやりとりをして今後の在り方を模索しているところです。法人のアンテナとして、または地域貢献としての役割を大切にしながら業務にあたっています。日々の煩雑な業務の中で、3所で工夫しながら定期的な話し合いを重ねて来ました。24年度はさらに具体的に協力を深め事業の継続・発展のために検討を重ねていきます。

## 4. 就労移行支援事業所のあり方の検討

就労移行支援事業所を創設して丸7年が経ちました。就労移行支援事業は成果主義の色彩が濃く運営が不安定になりやすい制度的な仕組みとなっています。立地条件等と圧倒

的な不利な環境にも関わらず、毎年、就職者を出せていることや利用者が増えていることは、それだけ地域の関係機関とのつながりや信用の大きさの表れであると同時に、法人全体で障害者就労の意義や、または雇用を考える時期になっていると考えています。

## 5. 事業継続（BCP）の策定

今年1月に能登半島で大地震がありました。ライフラインが整わず復帰するには、かなりの時間を要するようです。自然災害はいつ起こるか分かりませんので、常に備えて行く必要を感じています。昨年度は各事業所でBCPの研修に参加し、それぞれ計画を立てました。今後は法人内や地域で何を協力して出来るのか検討し実行に移していきたいと思えます。

## 6. 法人としての社会貢献事業

社会福祉法人として、より地域に開かれた施設運営を目指し、社会貢献活動を検討していきたいと考えています。昨年度は2回目の法人主催の「フードパントリー」を、やまびこ第二作業所の敷地内でおこないました。地域の関係者に協力を仰ぎ2年前より多くの方の協力を得ました。取り組みを通じて、今後の地域貢献の充実を図っていききたいと考えています。また、子供食堂など作業所の設備を利用し地域貢献ができるような活動を検討しました。今年度は実行に移して行けるように取り組んでいきます。

## 山彦作業所 2024年度事業計画

### 2023年度概況

昨年度は10月に物価高騰の影響で愛菜弁当を値上げすることとなりました。作業については作業工程を見直し、効率を図ることにより、スピードも出てきて様々な作業を受けることができました。そのため工賃アップに繋がりが平均工賃額が1万6千円になりました。

コロナが5類に移行し、4年ぶりに家族会も開催でき、家族との交流も増えました。

作業所内の電球をすべてLED電気に取り替える工事を行い、作業所内は明るくなり電気代も節約出来ています。

### 1 利用者の生活を豊かにする為 工賃額を上げていく

昨年度に引き続き、ダイレクトメールの封入、マグネット部品の組立、公園清掃、弁当事業が工賃へ反映される主な作業となります。

弁当作業の安定した継続や自主製品・新規作業への情報収集を図ります。

安定した作業を継続していく為に職員体制の整備(業務担当の複数化)をします。

### 2 利用者・職員にとって魅力のある 場所にしていく

利用者本人の希望や要望を面談や連絡

帳・雑談から聞き取っていきます。レクリエーションの充実を図り、仕事と楽しみのメリハリをつけていきます。

1, 2, について定期的な会議の開催、常勤職員だけではなく、非常勤職員を含め活発な意見交換や情報共有する時間を設けていきます。

### 3 一つの事にこだわりすぎない視野 の広い人材を育成していく

関係機関との繋がりを増やし、地域・他事業所との連携や会議へ参加していきます。

支援スキルの向上の為、職歴や職種関係なく各職員が研修に積極的に参加していきます。また、サービスマン研修や相談支援専門員研修への参加も積極的にこなしていきます。虐待防止・BCP・感染対策への理解を深めていきます。

虐待防止の観点から、風通しの良い職場の雰囲気作りを目指していきます。

また、事務・会計の方では効率化を図るためIT化やデジタル化、ミスや漏れを防ぐための相談体制や仕組み作りについて検討し、導入を図っていきます。

### 基本方針

- 山彦作業所は障害者の働きたいという願いに応えます。
- 山彦作業所は仕事を通じて利用者の物心ともに、豊かな地域生活を目指します。
- 山彦作業所は地域福祉の充実を目指します。

### 事業種別

就労継続支援B型

主たる対象者

知的障害者 精神障害者 身体障害者

利用定員 30名

職員構成

管理者 1名

(サービスマン管理責任者兼務)

職業指導員 1名

生活支援員 1名

目標工賃達成指導員 1名

相談支援事業所兼務員 1名

非常勤 4名

栄養士 1名

調理員 4名

事務員 1名

作業種目

①ダイレクトメールの封入

②マグネット磁石の組み立て

③弁当作業

④公園清掃

食事提供 毎昼

個別支援計画の策定と個別面談

健康診断の実施

行事・レクリエーションへの参加

## やまびこ第二作業所 2024年度事業計画

### ☆2023年度を振り返り

○コロナウイルスが5類に移行した事や、田柄・北町地域にB型事業所が少ない地域的な事情もある為か、作業所への見学者・体験実習・新規入所者の多い一年でした。それぞれの障害特性により、人との距離感にストレスを抱えやすい方もいるため、相互理解の大切さも伝える必要性を感じました。

○コロナ以降、4年ぶりとなるバスレクを実施することができ、多くの利用者が参加されました。働く事と楽しむ事のバランスを大切にして、今後も継続していきたいと思えます。  
○作業では新しい公園清掃を受け持つこととなり、参加した利用者同士で協力し合いながら、酷暑時も乗り切ることが出来ました。  
○12月には法人の事業としてやまびこ第二作業所にてフードパントリーを開催し、賛同してくださった関係機関や地域の方と新たなつながりを持つことが出来ました。また、こぶし事業所さん、はじめのいっぽ春日町さんと合同で避難訓練を行うなど、三事業所の連携を深めることに努めました。

### ☆2024年度の重点課題

1、利用者の個々の思いを大切に、関係機関と連携しながら、安定した地域生活を送れるよう支援します。  
2、病気や障害を抱えながら作業所で働く事を相互に理解し合えるよう関わります。また、作業場のレイアウトの工夫をし、利用

者にとって作業しやすい場所の提供を検討します。ヒヤリハットを作成し、安全に作業を行えるよう努めます。

3、利用者を通じて障害種別を問わず、地域との関係者とのつながりを深めていきます。

### ☆2024年度 取り組み

#### 1. 支援の充実

利用者の理解と関係者との連携を目的とした家庭訪問や同行通院を定期的に行います。また、障害の多様化や対応困難な利用者への支援方針や対応について、相談支援と協力しながら、チーム力の向上を目指します。

#### 2. 作業支援の充実

お互いに協力して取り組めるよう工夫や配慮をし、作業中に必要な挨拶等の言葉を掛け合い、相互に関わり合うきっかけを作ります。

職員が準備していた部分を利用者の力を発揮する機会と捉え、主体的に動くことで自信につながるよう取り組みます。

#### 3. 地域とのつながり

これまでに二度行った法人によるフードパントリーを定着させ、関係者とのつながりを深めていきます。また、こぶし事業所さん、はじめのいっぽ春日町さんと共に協力関係を築きながら活動してい

きます。

### ☆事業概要

事業名 就労継続支援B型

主たる対象者 精神障害

利用定員 30名

職員体制

常勤 3名（管理者・支援員）

非常勤 6名（支援員）

### ☆事業理念

1. 労働の場に参加することにより、相互に育ちあう環境を作ります。
2. 作業所が地域に根ざし、障害者も安心して暮らせる地域社会を目指します。
3. 障害者の就労を支援し、雇用の機会を広げます。
4. 生活の要求や、必要性に応じた活動を取り入れます。
5. 障害者の生活にかかわる施策と法律の整備、改善を求め、その自立を支援します。

### ☆事業計画（抜粋）

- ・ 支援の充実
- ・ 作業支援の在り方を考える
- ・ 地域との関わり
- ・ 事業所の環境整備を図る
- ・ 身体拘束・虐待防止
- ・ 非常災害時の対応

以上

# ワークショップ石神井 2024年度事業計画

## ■23年度を振り返って

23年度は、自主製品販売の機会をさらに広げ、地域にある学校の卒業生への贈り物に選んでいただくこともできました。また、受注作業も新規で1件取り組み、定着することができています。またウイズコロナを意識しながら、新規のレクリエーションを4回実施することができました。

## 障害福祉情勢と大事にしていくもの

コロナ禍に加えて終わりの見えない物価高騰という社会情勢の中、障害福祉事業所の運営はさらに厳しいものとなっています。令和6年度障害福祉サービス報酬改定では「メリハリのきいた」という言葉を基に、基本報酬を引き下げて加算を増やすといった成果主義の色合いがさらに強くなりました。平均工賃額や利用時間数といった数値でしか表すことのできない指標で加算や減算をする報酬体系では、多様な働き方を推進するどころか後退させてしまうのではないかと危惧しています。

そのような情勢の中でも、ワークショップ石神井では数値という成果主義にとらわれることのない支援・事業運営を目指しています。工賃収入や働く時間数を増やすように支援していますが、それは決して成果のみ追求しているのではなく、通っているメンバーが心身ともに健康を増進し、作業

をみんなでこなすことにより成長する機会を設ける。そのことを重視してこれまでもこれからも作業所運営を行っていきます。

## ■事業所の課題

①高齢化や障害の多様化により長い時間働くことが困難な人が増えている

②利用者のやりがいや成長につながる作業を用意し、結果として工賃増を図る

③感染症や大規模震災に備えたBCPの計画的運用

## ■事業所が取り組むこと

①足腰の痛み予防等の健康増進プログラムを年に1回以上実施

②受注作業を維持しつつ、外作業や自主製品販売の強化

③BCPに沿った防災訓練等の実施

## ■24年度目標

①従来の健康増進プログラムの継続と新規プログラム立案

②自主製品販売会に5回以上参加する

③BCPや各種マニュアルの整備改善を図る

## ☆事業概要

事業所名 ワークショップ石神井  
 （就労継続支援事業B型）  
 主たる対象者 精神障害者  
 定員 30名  
 職員体制 常勤3名（施設長・支援員）  
 非常勤3名（支援員）

## ☆事業計画（抜粋）

・工賃目標額 時給180円  
 平均工賃月額 10000円

- ・作業種目
  - ①ダイレクトメールの封入作業
  - ②農福連携事業
  - ③自主製品
  - ④商品パック詰め
  - ⑤外勤作業

- ・個別支援計画の策定
- ・個別面談
- ・家族・関係者との連携
- ・行事・レクへの参加
- ・利用相談
- ・苦情窓口
- ・非常災害時対応

# やまびこ三原荘 2024年度事業計画

## ☆2023年度の概況

### ●入居者

・退居 ↓ 4名。退去後の生活の場は、軽費老人ホーム等。

・入居 ↓ 2月に男性1名、12月に女性1名の計2名。入居前の住居は、更生施設1名と精神科病院1名。年度末で在籍が14名（通過型6名、滞在型8名）。

## ☆2024年度の

### 重点的な取り組み

### ●入居者の健康維持や生活支援を拡充する

#### 【課題】

入居者の高齢化に伴う精神科以外の同行通院や、日常的な買い物支援が増え、人手が足りなくなってきた。

#### 【取り組み】

毎月の入居者ミーティングで健康維持のアドバイスや注意喚起を行い、必要に応じて個別の声掛け等を行う。また、非常勤職員の時間変更や募集を検討する。

### ●入居者の高齢化に伴う次の生活場への移行支援を行う

#### 【課題】

高齢化に伴い、グループホームでの生活が困難になる入居者が出てきている。

#### 【取り組み】

早い段階から将来の生活をイメージできるように地域包括支援センター等と連携し説明会の開催を検討する。

### ●ホーム内での日中支援の検討

#### 【課題】

日中活動を週5日活動できる入居者は高齢を含め様々な理由からほとんどいない状態が続いている。

#### 【取り組み】

月に1回程度交流室を利用して定期的にレクリエーションの開催を行うことが出来ないかを検討する。

### ●業務内容の整理、明確化

#### 【課題】

職員が一人勤務時の緊急対応や、その判断について明確な基準が必要。

#### 【取り組み】

支援マニュアルの作成や見直しを行うことで日々の業務内容や非常時の対応などを明確化する。

## ☆事業概要

### ●事業名 共同生活援助

（グループホーム）

### ●主たる対象者 精神障害

### ●入居定員 17名

- ・ 本体 1階 男性2名（滞在型）
- 2階 女性4名（通過型）
- 3階 男性4名（通過型）
- ・ サテライト
- 1 D K 4室 4名（滞在型）
- 2 D K 1室 2名（滞在型）
- 2 D K 1室 1名（滞在型）

### ●職員体制

- ・ 常勤世話人・・・3名
- （うち1名、管理者とサービスマン責任者の兼務）
- ・ 非常勤世話人・・・6名
- ・ 顧問医 1名
- ・ 夜間体制 宿直週4回（火曜～木曜、土曜）

## ☆事業の基本方針

●入居者の生活の安定を図り、健康の維持増進と生活の質の向上を目指す。

●入居者同士が良好な関係を築いていけるように支援し、交流を図る。

●安心して快適に暮らせる住環境を提供する。

●関係機関と連携し、地域福祉の向上に資する活動を行う。

以上

## 相談支援 3事業所 2024年度事業計画

### 山彦相談支援事業所

#### 事業計画概要

1 モニタリングの実施とその情報整理、共有化を図ります。  
モニタリングの実施についてはその数を増やしていくことと、関係する事業所からの情報収集を行い、利用者の状況の把握に努めます。利用者、家族の高齢化は徐々に大きな問題となってきましたので、単に施設入所やグループホーム利用への対応だけでなく、成年後見制度の活用等についても制度理解を深めていきます。

2 三事業所の業務遂行の手順や文書書式との整備を図ります  
毎週のNOIによる会議が定着してきました。また日報の書式の統一化を行いました。24年度は計画策定やモニタリングに関する予定表統一化を図り、3事業所統一業務書式を作っていきます。

3 相談支援事業所の今後について  
三事業所統一化や業務連携について引き続き検討していきます。昨年の区との協議で事業所の主と従の関係で一体的な運営も考えられるとの見解が示されましたが、このこと

については引き続き検討を進めていきます。

4 相談支援員2名体制の確立  
兼務の職員2名体制での業務分担や様々な業務文書の整理を行っていきます。B型との兼務職員となるため業務の振り分けや勤務時間の配分等業務を進めながら調整をしていきます。

5 本人家族の高齢化への対応  
本人や家族の高齢化に伴い、入所施設やグループホーム入居の希望が増えてきました。また、B型から生活介護事業への変更希望も増えてきています。このための施設紹介や事業所案内等の業務が増えてきています。他機関との関係作りや情報共有により、スムーズなサービス変更、移行ができるようにしていきます。

#### やまびこ第二相談支援事業所

開所して10年が経ちました。法人のアンテナとして地域貢献としての意識を持ち業務に当たっています。しかし脆弱な運営が常に大きな障壁となっています。相談員は利用者を適正な支援につなげる活動をしたいのですが、このような運営状況では、そのような動きをすればするほど、

それらの活動は煩雑でしかも請求の対象外となり、結果として運営を圧迫してしまいます。運営か支援者か・そのような環境だからこそ、相談員としての倫理観や自覚が問われているのだと考えています。また現行の制度の問題点に触れる機会もありました。

23年は退院支援のために、病棟訪問にも何度か参加してきました。地域の相談員だからこそやれることがあると考えています。

相談支援事業の意義はやればやるほど感じます。これまでよく分からなくて曖昧だったことが、自分の中で基準が絞れてきて形となってきた実感があります。これらを周りに伝えていくこと、そして法人・兼務している、やまびこ第二事業所のメンバーの役に立てたいと思いが、日々強くなっています。

#### ワークショップ 石神井 相談支援事業所

利用者・家族との信頼関係を構築して意向確認・情報提供を行い、関係機関と連携を図りながら必要なサービスや制度に繋げて、利用者が望む生活に近づけることができるように努めます。

#### 24年度の取り組み

①制度等の知識向上  
利用者やその家族の高齢化により、様々な問題に対応する力が求められるようになってきました。家庭環境や家族状況の変化によって利用者の生活や心が不安定になるため、家庭内を安定させることが大切だと考えます。利用者が受けられる障害福祉サービスの他に家族が受けられる制度も知る必要があります。制度に関する知識の幅を広げ、利用者支援に役立てたいと思います。

②他機関との連携  
新規契約の時点で多くの支援者に支えられているケースもあれば、様々な支援者に繋げていく必要があるケースもあります。福祉・医療関係者だけでなく児童・高齢分野など様々な職種の支援者の協力がないと支えきれないケースもあり、平穩時から連携して緊急時にスムーズな対応が取れるように準備したいと思えます。

③法人内の支援体制  
職員の体調不良等に備えたバックアップ体制の構築は以前からの課題です。BCP（事業継続計画）に添って整備を進めていきたいと考えています。また、情報や制度などについても職員間で共有し互いの支援に役立てることができればと思います。

# チャレンジワークやまびこ 2024年度事業計画

## 23年度を振り返り

国を挙げて、誰もが職業を通じた社会参加のできる「共生社会」実現の理念の下、障害者の就労促進に急激な動きが表れています。法定雇用率は段階的でありますが過去最大の上昇で、企業側は雇用準備に追われ、当該事業所にも求人連絡が後を絶ちません。

そしてその流れに沿い法改正など、働き方の多様化も形付いてきました。

しかし、国全体での就労定着率の低さにも目を向けた取組でなければ、ただ就労の受け皿が増えるだけの結果に留まります。長く働くことも大きな就労のテーマであることを強く願います。

25年度から、働き方やニーズの多様化に本人らの希望、適性等に合ったよりよい選択を支援する「就労選択支援」が新設されます。（25年10月施行予定）

練馬区で策定中の「第七期障害福祉計画（24～26年度）」の素案では、その実施検討が新たに挙がりました。よって、今後さらにアセスメントの重要性が増し、「働く」を支える仕組の強化が図られます。このことで実施事業所や相談支援、各支援機関の連携がより一層求められます。引き続き区の動向や地域連携に意識を向けていきます。

私たちは就労促進の歩みを慎重に捉え、働きたい想いを支えます。そして本人にとって意味のある選択になるようシステムが示す未来を見据えていきたいと考えています。

## 24年度の

### 重点的な取組

#### 1 集団プログラム・学習の充実

引き続きメンバー間の関係性を育みながら就労準備の学習、職場をイメージした共働の業務や、その中でコミュニケーションなど活きたプログラムの充実を図ります。

#### 2 地域との繋がり強化

特別支援学校、企業、区内ネットワーク会議、区障害者就労支援センターとの共同支援を継続します。また23年度末に区福祉部主催の地域活動マッチング企画にて、ボランティアに関心ある方々と新たな繋がりを持ちました。プログラムや学習機会にお手伝いをしていただくことで、地域で支え合う支援の可能性を広げていきます。

#### 3 外部学習会の活用

事業所外での学習機会を活用し、準備性の意識付を図ります。

公共機関が開催する外部セミナー（学習会）を始め、事業所外の活動から得る就労意欲やモチベーションの向上は、その後の就労準備の意識に大きく寄与します。公共交通機関を利用し会場に向かうことも就労練習の一つです。重要な社会体験になることがあります。

## 事業計画（抜粋）

- ・事業名 就労移行支援事業
- ・主たる対象者 知的障害、精神障害
- ・利用定員 6名

- ・職員体制  
管理者 1名

- 常勤支援員 2名  
（サービスマニエール管理責任者の兼務）

- 非常勤支援員 1名

〈職業指導員〉  
〈就労支援員〉  
〈生活支援員〉

### 基本方針

- ・利用者の働き続けたい想いをサポートします。
- ・チャレンジという言葉通り失敗も含めた様々な体験をして学び就労を目指します。
- ・本人の目的とペースに合わせたプログラムを提供します。
- ・福祉就労とは違い、一般企業に貢献できる社員として就職できることを目指します。

### 移行支援の内容

- (1) 生活支援
- (2) 就職支援
- (3) 就労実習
- (4) 定着支援

## やまびこのペン

寄り添うて

むずかしいね

黒川 恵

私が20代前半の頃、保育士の資格を活かし、保育園で働いていた時期がありました。子供達は可愛く、とても愛しい存在で、職場の人間関係にも恵まれて毎日楽しく過ごしていました。ちなみにその当時担任していた子供達は、もう20代前半になっています。そんな私に、保育園に子供を預けているお母さんが「めぐみ先生毎日楽しそうにしているね。怖いものなしって感じ。若くて子供がない先生には、子育ての悩みのある私の気持ちはわかってもうええないだろうな」と言われました。

その当時一緒に担任を持つ

ていた先生に相談すると、「私たちは、保育の勉強をしてきて、国家試験も通っている。保育のプロとしてプライドを持って、お母さんに寄り添っていきましよう」とアドバイスをもらいました。

あれから、月日は流れ、ありがたい事に私も2児の母親になりました。

子供を産んでから、自分の命よりもはるかに失うことが怖い命があることを知りました。子供が元気に成長するというのは、本当に奇跡の連続なのだと感じます。

私の前から大事な子供達の命がフツと消えてしまっただらうしよう。きつと多くの親たちが、同じ気持ち



で我が子の手を握りしめているのではないかと思えます。

「今日も子供達が健康で笑顔で1日を過ごせました。明日も子供達が健康で笑顔で1日を過ごせように見守っていて下さい」

寝る前に毎晩伝えている言葉に並々ならぬ願いを込めてしまいます。

きつと、あの時、園児のお母さんが私に言ったのは、保育のプロとしての目線や保育士としてのアドバイスではなく、母親としてのこの気持ちだったのではないかと思います。

自分の子供を大切に思い愛しているからこそ「苦しさや、子を失うことの恐怖心。そして人と比べてしまい自分の未熟さを感じずにはいられない思い」

当時の私は、一生懸命、寄り添っているつもりでしたが、お母さんは、「そういう事じゃないんだけどな

」と思っていた事でしょう。

その立場に立ってみないとわからないものですね。

私が働く山彦作業所は、利用者の笑顔が多く、毎日楽しそうに出勤してくれま。幸福度の高いみんなと一緒にいると私も幸せな気持ちになります。私にはできなかった「寄り添い」がみんなはできるのです。素直さと明るさかな。

将来は、山彦グループを練馬の地域で1番愛される作業所にしたいです。そして、もっとみんなのことを地域の皆さんに知って欲しいと思っています。



